

利根川と印旛沼という恵まれた環境にあって、昔からウナギの産地として知られる成田。成田詣での参拝客によってその美味しさが広まり、現在は獲れにくくなったものの、伝統の味は受け継がれている。

成田という土地柄、外国人客も多い。300年以上前に創業した大野屋特製うなぎ茶漬、江戸時代から続く川魚料理の老舗菊屋の上うなぎ重、明治43年（1910年）創業、創業99年のうなぎ専門店豊本本店の上うなぎ重など多く



うなぎ重

の名店あり。

成田山表参道の葉師堂前にあるそばの名店ふじや。厳選された卵黄で打たれたコシとなめらかなのど越しが特長の卵切りそばが美味。皆さんも千葉へおいでの節は、うなぎやそばをご賞味ください。



卵切りそば

(三和機材(株) 嶋野 亨)



## 私の履歴書

岩盤削孔技術協会会長  
(社)日本建設機械化協会  
施工技術総合研究所長

見波 潔



見波 潔(みなみきよし)

昭和28年4月 京都市生まれ

昭和54年 建設省入省

平成18年(独)土木研究所  
技術推進本部長

平成20年(社)日本建設機械化協会  
施工技術総合研究所長

### ■生まれてから高校生まで

京都市内の童安寺や妙心寺、等持院といったお寺に歩いて行くことができる距離の所で生まれました。小学校1年生まで京都に住んでいたのですが、父の転勤で津市、静岡市、高槻市に移り住み、高校生になって京都に戻りました。子供のころから転校・引越しが平気だったのですが、社会人になってから現在に至るまで転勤・引越しを繰り返すことになろうとは思ってもみませんでした。

高校時代の修学旅行で東北地方に行ったとき、雄大な景色の中に道路や橋があるのを見て、「こんな大きなものを作って世の中に残せたらいいなあ」と漠然と思ったことが、後に土木工学を選ぶ伏線になったような気がします。

### ■大学での土木工学との出会い

京都大学土木工学科に進学し、生真面目でしかもユーモアに溢れる吉川和広先生のお人柄に惹かれて研究室に入れていただきました。土木計画学の研究室で、周りは道路計画や水資源計画に関する研究をしている仲間が多かったようですが、私は将来建設会社に行きたいと思っていたこともあって、施工計画に数理計画手法を取り入れることを研究テーマに選びました。当時、先生は今で言う「建設マネジメント」の基礎作りに尽力されており、その一端をお手伝いできたことを今でも光榮に思っています。

### ■土木技術者としての原風景

建設省に入省すると、土木研究所施工研究室に配属となりました。配属直後、当時の上司から「土工や地盤改良の現場を何日でもいいから見て、研究課題を探せ」「土を握って土質分類や含水比がわかるようになれ」などと言われ、現場主義の姿勢を教えていただきました。以来、土工や補強などに関する実験・計測を自ら行う日々が続きましたが、私の技術者としての原風景は土木研究所の実験棟での日々の格闘にあります。

現在の私の勤務先にも、名称に「施工」「研究所」という言葉が入っており、しかも伝統的に現場主義、実証主義、直営主義を貫いているという点においても、四半世紀を隔てて自分に合った職を与えてもらったものだと感じています。

### ■地方性国家公務員

8年余りの研究員時代の後に、行政に転じることになりました。本省の他に地方の出先機関と地方公務員(県庁、市役所勤務)も経験し、自称「地方性国家公務員」と名乗っています。

建設省の酒田と静岡の事務所長をさせていただいた時、事業を進めるに当たっては地域の皆さんとのコミュニケーションがいかに重要かを学びました。

その後、豊田市の助役を3年間務めさせていただきました。東海豪雨などの突発的な出来事に遭遇する度に、地域のリーダーである市長の責任の重さや迅速な対応の仕方を鈴木公平市長から学びました。補佐役であったはずの自分の力不足を感じるとともに、以後の私の公務員としての意識に大きな影響があったことに間違いはありません。

高知県庁では県内の土木行政全般を所掌する立場で様々な課題に対応しました。当時の橋本大二郎知事からは行政の進め方について多くを学ばせていただきました。中でも、「役所に隠し事はしない」というスタンスで対外的にオープンな形で議論を進めるやり方に当初は戸惑いもありましたが、公務員としての基本姿勢を教えていただいたものと思っています。

### ■社会に貢献する研究所を目指して

その後再び研究所勤務となり、国土交通省国土技術政策総合研究所では研究方針や研究評価に関する業務、(独)土木研究所では新技術の開発・普及に関する業務に携わり、平成20年5月には施工技術総合研究所に移り、研究所全体のマネジメントを行う立場になりました。当研究所は、建設機械と機械化施工に関する我が国唯一の総合試験研究機関であり、行政機関や民間企業等からの依頼に基づいた調査・研究を通じて、社会に貢献し続ける研究所を目指しております。

幸いにも当研究所には多岐にわたる分野の技術者・研究者が揃い、各種試験設備・装置を保有しています。これら資源を活用して、他に負けない成果を創出することを目指します。特に、研究所の業務は「人」が全てであるといっても過言ではありません。所内のコミュニケーションを良くし、議論を深めることで技術力の向上と総合力の発揮に努めております。

### ■信条・趣味

人の和、絆を大切にし、これまでにお世話になった方々との交流を続けるとともに、これから出会う方々を大事にし、私自身にできることがあれば少しでもお役に立ちたいと思っています。

体を動かすことは好きで、学生時代はバレーボール同好会(体育会ではない)、その後スキー、ゴルフなどもやり、最近ではもっぱらテニスに凝っています。年齢とともに「省エネ型」になり、パートナーを信頼して(?)自分はできるだけ動かないテニスになってきましたが、これまでの勤務地や居住地でのテニス仲間との交流を続けていることを嬉しく思っています。